

平成23年6月1日発行

会員各位

協会だよりー222(6月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

<トピックス>

- 第209回月例会(講演会)幹事は東日本大震災の被害大なる地・南相馬市で操業されている株式会社シマ商会 取締役副社長 島 一樹様に講演の交渉をしています。演題:南相馬市ひいては福島県経済復興のためのクリーンエネルギー化構想(仮題)・・・復興構想私案の予定ですが、確定次第会員各位へお知らせいたします。
- 2010年版・触媒資源化実績報告書の発行準備を進めています。



東京都江東区の仙台掘川沿いにある芭蕉の奥の細道・俳句の一部(福島にて)です。今、福島では田植えや如何に？

- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
【予定事項】
- 二. 事務局より(6月度の予定)
- 三. 西洋と東洋を分けるイスタンブールを訪ねて
(鶴岡武さんの寄稿文)
- 四. 発祥の地 十一(私学発祥の地) 日本大学(日本法律学校
国学院大学(国学院)・・・皇典講究所が起源

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① **協会だよりー221(5月号)** をメール&郵便で送信(5/2)
- ② 第一回運営委員会
日時: 5月20日(金) 15時30分~17時00分
場所: 堺化学工業㈱会議室
議題: 第209回月例会の準備、他

[予定事項]

- ① 第一回調査・技術委員会
 日時：調整中
 場所：日興リカ㈱会議室
 議題：2010年度の資源化実績編集、他

2. 事務局より (6月度の予定)

曜日	月	火	水	木	金	土
1週	5/30	5/31	1	2	3	4
	×	○	×	×	○	×
2週	6	7	8	9	10	11
	×	○	×	×	○	×
3週	13	14	15	16	17	18
	×	○	×	×	○	×
4週	20	21	22	23	24	25
	×	○	×	×	○	×
5週	27	28	29	30	7/1	7/2
	×	○	×	×	○	×

事務局延べ出勤予定：8日 (○；終日、△；半日、×は休日)。

鶴岡さんには、一昨年、昨年とアラスカのオーロラ探検記、南極大陸上陸探検記と極地探検紀行文をお願いしましたが、今年はトルコを訪問したと聞いていたので、トルコ・イスタンブール訪問記の執筆をお願いしました。寄稿文はアジア物性材料㈱の社内報1～月号に掲載された文章をいただきました。ご期待ください。

3. 西洋と東洋を分ける イスタンブールを訪ねて

長年の念願だったトルコのイスタンブールを訪ねる事が出来たので紹介する。地中海沿岸諸国を訪ね、古代から中世の西洋史や小説を読むのに現地を知っていると興味が倍加される。

今まで、スペイン、イタリア、エジプトには行ったが今回トルコを終わったので、残りはギリシャのみとなった。実は、昨年計画したが例のインフルエンザで今年に延期、実現したので大満足である。出発前に姪から次の三冊を借りて、予め読んでトルコの知識を広めての旅とした。

「コンスタンティノープルの陥落」塩野七生著

ギリシャ正教の都市国家コンスタンティノープル、2000人守備兵に対し、トルコのスルタン、マホメット二世は15万の兵で攻めかかり、二ヶ月戦って攻め落とし、以後トルコの主都としたのが500年昔の話。

「ロードス島攻防記」塩野七生著

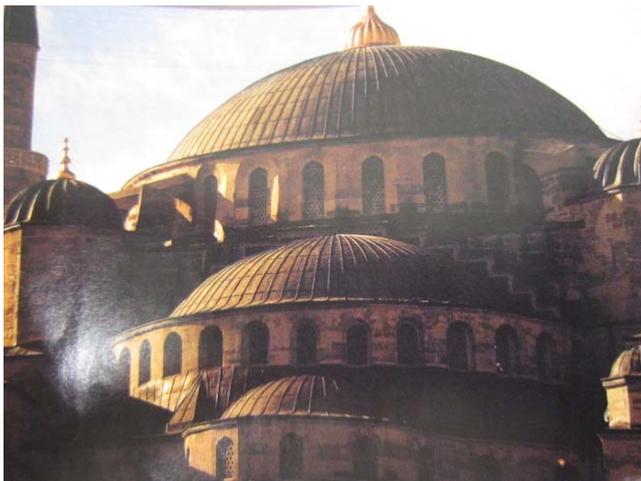
イスラム世界に対しキリスト教世界の最前線に位置するロードス島。コンスタンティノープルを陥落させ、巨大な帝国を形成しつつ西進を目指すオスマントルコにとって、ギリシャとトルコ間にあるこの島は喉元のトゲのような存在だった。1522年、オスマントルコの最強大帝スレイマンは、20万人の兵を用い騎士600を含む5000人の守備兵と五ヶ月戦い攻略した。尚、封建貴族は長男のみ跡取りとなり次男以下は修道士か騎士団員と成った。

「シナン」上下巻夢枕 獏著

天才建築家で数学者であり、数々のモスクをつくり100歳まで生き、スレイマン帝王とのやりとりが面白いルネッサンスのミケランジェロとも会っている。

8日間の日程で成田からトルコ航空に12時間搭乗。イスタンブールに着き、更に乗り替えカッパドキアに泊る。観光では有名な場所で、石灰岩の上に火山灰が積り、空気中の炭酸で岩のみ溶かされ、熔岩の笠をかぶったキノコ岩が東西南北100kmに渡り乱立していて綺麗である。又、ローマ軍に追われたキリスト教徒がこの地に逃れ、石灰岩内を掘り、学校をつくって修道士を育て、各国に布教に向かわせた洞窟も残っている。

続いてコンヤ経由、石灰棚の美しい影観で有名なバムツカレを見物す。ローマの金持ちや高官が晩年この保養地に来、温泉治療をしていた。特に治癒の可能性のない患者が多く、周辺に沢山のローマ人墓地があるらしい(見発掘)。



続いてトルコ最大級のギリシャ遺跡エフェソスとベルガモンへ行く。海岸になり神殿群、図書館劇場跡などがある。ここが中国長安まで続くシルクロードの陸出発地である。地中海沿岸最後の遺跡は5000年昔のホメロス叙情詞「イリアス」に登場する「トロイの木馬」観光である。トロイの人達は古代ギリシャ軍が負けて引きあげたと思い、置いて行った木馬を戦利品として市中に入れ酒を呑んで戦勝を祝っていたところ、夜中木馬の腹から出てきたギリシャ兵が城門を開け、ギリシャ軍を導入一瞬にしてトロイアを破壊した話である。遺跡そのものは5000年も昔の話で幻と考えられていたが、独国人探検家が発見した。海岸都市だったが、陸地化が進みかなりの内陸で発見された。沢山の宝物が出て、皆独国のヒトラーが自国へ持ち去ったが、第二次大戦後ソ連軍が戦利品として持ち去るも、トルコに返却要求されるのを恐れて今だ倉庫に眠っている。擬似木馬があり遺跡は半分位掘り出されていた。エジプト初期の話であり、日本の2000年にも未だない歴史の批ではない。そう言えば魏志倭人伝に出て来る邪馬台国が奈良らしいと発掘経過が新聞等に載っていた。これとも中国三国時代AC1000年頃の話だ。

最後に最終目的地イスタンブールに着く。ボスポラス海峡をクルーズし、左手のヨーロッパと右手陸地アジアを区切る海域であり狭い部分は3kmで、東洋と西洋をつなぐ橋が二本あり。アジア地域に居住し、橋を渡って連日西洋で働いている人達も沢山居る。見掛けでは西洋側の方が立派な街の様であった。兩岸に検門所があり、通行船舶から税金を取っていたらしい。

此の辺は現在総てトルコ国に成っているが、5000年昔は西洋側の旧市街はコンスタンチノープルと稱し、1000年以上も続いたギリシャ正教の都市国家であり、ビザンチン帝国又は東ローマ帝国と呼ばれていた。先に記した通り、トルコ軍に三重の城壁が大砲で壊され、攻め取られてしまい、その後、オスマントルコ首都となってしまった。しかし、第一次世界大戦で独国側につき敗戦国となってオスマントルコは滅亡し共和国となった。旧市街にはヨーロッパとアジアの多くを支配したオスマン帝国のトプカプ宮殿やブルーモスク等、多くのモスク群がある。昔教会だったがトルコに依りモス

クにされたアヤソフィア大聖堂もある。 四角い柱に高さ56m、巾31mの石積み円天井があり、現代技術をして出来ないとされている。天才シナン作のトルコ最大の帝王のモスク、スレーマンジ



トプカプ宮殿



アヤソフィア大聖堂

ヤニーの内部を見たかったが、(王様は一国の王、帝国は幾つもの国を支配する者の名稱) ツアーの行程になく残念乍ら見れなかった。兎に角モスク内張りタイルの美しさは素晴らしい。天才建築家シナンは石工や大工、彫刻家は地位、年齢、宗派に関係なく秀でた者のみを使った。従って作業者の中には沢山のキリスト教徒もいたらしい。尚、此の美しいタイル製造技術は当時の職人が自分の技術を保持したく、弟子に伝承し無かったので未だその製法は不明である。

オスマントルコについては野蛮な国で直ぐ首を切る恐い人種と思っていたが、さにあらず。元々遊牧民が土着し馬に乗るのが上手で、鎧で身を固めたヨーロッパの騎士達は戦場で活発なトルコ群には立ちうち出来なかった。負けたのは蒙古群のみで、ペルシャ などさんざん痛めつけられていた。トルコの地中海沿岸の島々はギリシャ領だが、本国島まで30km以上もありトルコは数kmの為、そこの行き来が多く結婚もトルコ内でし、住んでいる。

温暖で沢山の果物が収穫出来、オリーブ、柘榴、マルメロ、イチジク等、多く栽培されており、お菓子もこれ等の果物を使った品が多い。柘榴の生ジュースは200円位だったが美味である。又、トルコ土産の90%は中国産である。此の地域からミスユニバースが出る。よく果物を食べている為地中海沿岸の女性は美人が多いとのガイドの言だが、どうもそうでは無く背の高いギリシャ美人との混血が良いのではと思った。出来れば自由にイスタンブール周辺を散策してみたいと思い乍ら今回の旅を終った。尚、トルコ内は全てバスで一日400k~500kmも走り、中に風邪を引いている日本人が居り、車内で皆に感染しひどい目にあった。自分は帰路機内で危ないと思い、一切酒は呑まなかったが、前の席の仲間が風邪薬を飲み乍ら酒を呑んで酸欠症で倒れ、機内で医者を探すなど大変だった。運良く三人の医者が居り、酸素吸入で助かったが、奥様がショックで倒れて又大騒ぎというハプニングがあった。今度はギリシャ美人の国を訪ねてみたい。 以上

鶴岡 武氏 (アジア物性材料(株) 取締役会長)

4. 発祥の地 十一 (私学発祥の地)

官学、私学の発祥の地を訪ねて今回で11回目となりました。最初は中央区、千代田区、港区を中心に紹介していましたが、前回は横浜まで足を伸ばしました。今回は又身近な千代田区に戻ります。JR飯田橋駅近くにある、日本大学、國學院大學の発祥の地です。日本大学は現在、東京を中心に千葉、埼玉、神奈川、福島、静岡の6県に14学部のキャンパスを擁し、日本最大の学生数を持つ巨大な大学であり、あえて言うと14の大学の集合体といったほうが良いようです。両校の記念碑は千代田区飯田橋3丁目の東京区政会館前の歩道と車道の脇にあります。両校とも時の司法大臣・山田顕義により1882(明治15)年に創設された皇典講究所を母体としています。

- **日本大学【日本法律学校】** 日本大学のうちでも法学部が日大の起源ということになります。

- 国学院大学【皇典講究所】 発祥は日大法学部と同根の皇典講究所です。



日本大学開校の地

明治22年(1889)、ここに皇典講究所内に維新の志士、吉田松陰門下、時の司法大臣である山田頭義により日本法律学校が創立されました。

これは日本大学の前身にあたります。明治28年(1895)に三崎町に移りました。

国学院大学開校の地

明治15年(1882)、この地、旧飯田町5丁目に国学を研究する皇典講究所が設けられました。明治23年(1890)、皇典講究所を母体として、所長 山田頭義によって国学院が開校しました。現在の国学院大学です。大正12年(1923)、渋谷に移りました。



国学院大学は、渋谷と多摩プラザにキャンパスを持ち、文系の中堅大学といえるが、特徴のある学部として皇典講究所を母体とする神道文化学部があり神社本庁の神職の資格が取れる神職課程があります。神職の資格が取れる大学は国学院大学と三重県伊勢市にある皇學館大学の二校だけです。

【文責：専務理事】